ISSN 2758-8432

長岡崇徳大学研究紀要

第４号　2023

Bulletin of Nagaoka Sutoku University

資料（実践報告）

コロナ禍における臨場感のある母性看護学学内実習

髙島葉子, 佐藤初美, 風間みえ　……　1

長岡崇徳大学

長岡崇徳大学研究紀要　第４号　2023

［資料（実践報告）］

コロナ禍における臨場感のある母性看護学学内実習

髙島葉子　　佐藤初美　　風間みえ
長岡崇徳大学　看護学部　看護学科　母性看護学

Effort to Achieve Realism On-campus Maternity Nursing Practice during the COVID-19

Yoko Takashima, Hatsumi Sato, Mie Kazama
Nagaoka Sutoku University, Department of Nursing, Factury of Nursing, Maternity nursing

要旨：**背景**　コロナ禍の中，2021 年度から開始した本学母性看護学実習においても感染拡大防止関連のためしばしば学内実習となったが，学生の学びが不十分ではないかと感じていた．2022 年度は学生数も増え，複数教員でその都度，学内実習の課題を検討しながら指導することは困難となった．
目的　指導教員が一人でも指導でき，教員間の力量の差を最小限とした臨場感のある学内実習のプログラムを考えて臨んだ．学内実習の実施過程と課題を整理する目的で報告する．
倫理的配慮　実習記録と画像の使用について学生に目的および内容，公表について実習評価を終えた後にメールで説明し，メールの返信により対象学生全員から承諾を得た．
評価方法　実習評価表，実習記録，メールによる学内実習の感想の内容を分析した．
結果　対象学生の【学び・できたこと】は７つの肯定的な内容が示され，教員の工夫や指導意図は十分伝わっていたことが読み取れた．学内実習の課題としては【不安・残念だったこと】が２つあり，臨床の場で妊婦・褥婦・新生児へのケアが直接出来なかったことは課題を残した．また，評価点に差がない現状が明らかとなり，今後検討していく必要がある．

キーワード：コロナ禍，臨場感，母性看護学，学内実習
Keywords：Covid-19 pandemic , realism, Maternity Nursing, on-campus practice

Ⅰ．はじめに

わが国では，2020 年 1 月 16 日，国内初の新型コロナウィルス感染症が確認されて以来人々の暮らしは一変した．3 年以上に及ぶ長い新型コロナウィルス感染症との闘いは 2023 年 5 月 8 日をもって「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる 2 類相当）」から「5 類感染症」となったことによって（厚生労働省大臣公表文書，2023）決して終息したとは言えないが，一つの段階を終え，人々の生活はマスク着用を必須とはせず，イベントの制限もなくなり従来に戻りつつある．しかし，この 3 年の間，周産期医療の現場では夫立ち合い分娩や家族面会の中止，夫や家族の診察室入室禁止，母親学級・両親学級などの中止が相次ぎ，妊産婦・家族の支援に苦慮し，かつてないほどの苦難を余儀なくされた．母子や夫も家族としての第一歩を切り離された形で出発せざるを得ない状況が続いた．

こうした周産期医療現場の厳しい状況の中，長岡崇徳大学（以下「本学」とする）は 2021 年度から 1 期生の母性看護学実習を開始した．1 クール～ 8 クールの実習のうち，1 クール目と 2 クール目の実習が中止となったため，急遽学内実習に切り替えて実施した．学生数が 39 名と少ないこともあり，母性看護学教員 3 名が連日話し合いながら行うことができたが，準備性は大変不十分だった．2022 年度は学生数が 55 名に増え，実習場も同時に 2 か所の産科医療機関が必要となり，2021 年度のように母性看護学の教員 3 人が協働して実施していた学内

連絡先：〒 940-2135　新潟県長岡市深沢町 2278 番地 8
E-mail：takashima-y@sutoku-u.ac.jp
TEL：0258-46-6666（内 6609）FAX：0258-86-6637

実習を進めていくことは困難となった．牧野（2020）はシミュレーション教育の課題として，教員の経験や指導力によって教育効果に違いが生ずる可能性があることを明らかにしており，まさに１人で担当する学内実習では教員の力量によってしまう可能性は限りなく大きい.また，臨地での母性看護学実習を楽しみにしていた学生が学内実習となり，残念そうにしている様子が大変気になった．そこで，担当教員が１人でも指導でき，できるだけ臨場感のある学内実習のプログラムを考えて臨んだので，その学内プログラムの実施過程およびそのプログラムの問題点と課題を整理する目的で活動報告としてまとめた.

Ⅱ．倫理的配慮

学内実習の学習過程は実習記録および写真などの画像により綴っていくため，実習記録と画像の使用について学生に目的および内容，公表についてメールで説明し，対象学生全員からメールでの返答により承諾を得た．この同意については実習評価を全て終え，学生に示された1年後に実施しており，成績には無関係である．また，個人が特定されないように留意した．実習施設に関しては固有の名称を避けてA病院などの表現とした.

Ⅲ．母性看護学実習の概要

1.　実習目的

実習目的は「周産期にある対象者とその家族を尊重し，適切な援助ができるための基礎的能力を養い，妊娠期から子産み子育て期まで切れ目のない継続したケア実践を理解する.」である.

2.　実習目標

実習目標は「1.　産褥期にある母性の特性と健康問題について理解を深め，看護過程を展開できる」「2.　母子・父子を取り巻く家族関係を把握し，家族再構築のための看護実践について説明することができる」「3.　母子支援は妊娠期から子産み子育て期まで，継続して実践されていることを説明することができる」「4.　妊娠分娩産褥期および早期新生児期にある母性の特性と健康問題に応じた看護実践ができる」「5.　生命の尊厳の認識を深めると共に自らの母性・父性・親子・家族について考えることができ，ケア提供者としての成長を図ることができる」の５つとした.

3. 実習方法

1）実習内容

⑴ 妊娠期・分娩期・産褥期実習

産科医療施設はA病院，B医療センター，C病院，D病院，E病院の５病院である.

実習内容は，産婦人科病棟では周産期にある母性看護の対象者（妊産褥婦・新生児，胎児を含む）とその家族に対して，既習の知識･技術･態度を統合し，ウェルネス看護の視点で個別性のある看護過程を展開し，産婦人科外来では妊婦健康診査・母親学級などを見学する.

⑵ 子育て期実習

実習施設は，子育て支援施設２施設と産後ケア施設２施設および無床助産所５か所である．子育て支援施設実習は２つの施設のどちらかで１日，産後ケア施設実習は行政運営施設と行政委託施設のうち，どちらかで１日計画した．また，女性と家族が次世代を産み育てるために，家庭や地域における継続的な母子支援も体験することとした．無床助産所同行実習は，顧客の同意（学生同行）が得られた時のみ実習ができるため事前には計画できず,予定が入った場合，調整を要した.

2）２週間の実習配置および実習スケジュール

学生の実習配置および実習スケジュールは２つのパターンに大別できる．パターン１は２つの病院に５名の学生が分かれて配置される場合で，１週目に１週間の病棟実習を行い，２週目は病棟以外（外来・子育て支援施設・産後ケア施設）での実習を行う方法である．パターン２は1つの病院に5名の学生が配置される場合で，１週目３名の学生が病棟実習，２週目に病棟以

外の実習を行い，1 週目 2 名の学生が病棟以外の実習，2 週目に病棟実習を行う方法である．

3）実習時間

実習時間は，8 時 30 分～ 16 時とした．

Ⅳ．2022 年度学内実習の実際

1．学内実習となったグループ

1） 子育て支援施設・産後ケア施設・無床助産所同行実習

子育て支援施設等においては全てのグループが実施できた．

2）産科医療施設（病院）実習

新型コロナウィルス感染症が拡大した時期は感染拡大予防および病棟再編成により学生指導体制が整わないなどの理由で病院の実習受け入れは難しく，学内実習を行ったのは 14 グループ（学生数 51 名）のうち，3 グループ（学生数 10 名）であった．本報告においては学内実習に切り替わったとしても 2 日以内の実習は含めず，学内実習が 3 日以上に及んだものを学内実習として扱った．

2．臨場感のある学内実習を行うに際しての工夫・留意点

1）病棟・病室の設定

⑴ 病院実習に近いような褥室・新生児室・外来診察室を設定

母子看護学実習室を病院実習に近いようにナースステーション，褥室，新生児室，外来診察室を設定した．

2） 産褥経過による悪露の変化や新生児経過による黄疸や便などの変化サンプル作成

⑴ 絵具等を用いて産褥日数に応じた悪露の量と色を付けたサンプルの作成，新生児の排便の色の変化（胎便・移行便・普通便）やレンガ尿などのサンプルの作成

産褥経過や新生児経過は 1 日毎に変化していくことを理解できることが重要な学びの視点である．そのため，できるだけリアルに学べるように，絵具等を用いて産褥日数に応じた悪露の量と色をナプキンにしみこませたサンプルの作成，新生児の胎便（図 1）⇒移行便⇒普通便の色の変化やレンガ尿などのサンプルの作成，新生児黄疸が視覚的にわかるように黄色い絵具でサランラップを着色し（モデル人形の肌が着色され除去できないため）モデル人形の顔や体を覆った．

図 1　胎便（無臭・黒緑色・粘調性）

⑵ 産褥モデル人形や乳房模型を用い，進行性変化や退行性変化の観察の実施

また，産褥モデル人形（ベッドに置き寝衣を着せ顔の絵をセット）や乳房模型を用い，進行性変化や子宮復古の観察（図 2）など退行性変化の観察を実施した．

図 2　子宮復古の観察

3） 学生が緊張感をもって学内実習に臨むため臨場感を出す工夫

⑴ 看護部長への実習開始挨拶の実施

臨地実習においては実習初日必ず看護部長に挨拶をし，実習の抱負を述べている．学内であっても同様のことを実施することで臨地実習に対する緊張感をもって取り組めるように看護部長への実習開始挨拶を実施した．看護部長役は母

性看護学教員が行うか他領域の教員にお願いした．

⑵ 教育用電子カルテを使用し，包括的に褥婦・新生児の情報収集

2021 年度から学内実習の場合，褥婦・新生児の看護過程を展開するために Medi-EYE の教育用電子カルテを使用し臨地と同じように情報を得て看護過程を展開させてきた．2022 年度においても同様に実施した．事例は数例あるが，臨地で学生が実際に受け持つように大きなリスクのない母児とした．日々変化していくことに関しての計測値は必要に応じて紙媒体とした．学生にはこの紙媒体の情報を一日毎に提示し，学生はアセスメントした結果を臨床指導者(役)に報告し，助言を受けさせた．状況に応じて教育用電子カルテの内容や観察項目を追加したり減らしたりしていった．学内実習の１日が終了した時点で，電子カルテを見られる範囲を更新し，学生は翌朝の実習開始と同時に夜間の状態を情報収集できるようにした．

⑶ 実際の実習をイメージできるように，指導者への報告場面の設定

臨地実習で学生が最も緊張しているのは，指導者との関係である．特に指導者への計画発表や報告に向けて，下書きや練習をしている場面にはしばしば遭遇していた．そこで，指導者への行動計画発表や観察後のアセスメント報告場面を設定した．

⑷ 教員・実習補助者，時には大学職員の模擬褥婦に生身の人間としてケアの体験

対話を通して実習体験できるように教員又は実習補助者,時には大学職員が模擬褥婦となり，生身の人間に対してケア（図３，図４）を実施した．

⑸ 退院時には模擬父親が迎えに来て家族で帰る場面の設定

臨地実習でも退院時にタイミング良く夫（家族）のお迎えに遭遇しお見送りができることはそう多くない．新生児の誕生は新たな家族を構築する大切な移行である．家族ケアという視点を考えてもらいたいために設定した．

図３　寝不足のママに背部マッサージ

図４ ポジショニング・ラッチオン指導

4） 学びを統合するための工夫

⑴ DVD の視聴を通して学びを深める時間の設定

学生にとって自分の実践したケアを統合して考えることは難しい課題である．臨地実習ではなかなかできない DVD の視聴を通して自らの行ったケアを統合し学びを深める時間を設定した．

⑵ 必ずケアの振り返りを実施

褥婦にケアをした際には，必ず模擬褥婦も加わり学生は褥婦役と共にケアを振り返ることとした．褥婦役の率直な感想「背中のマッサージはとても気持ち良かった．できたら，強さを聴いてくれたらもっと気持ち良かったと思う」「リーフレットを使って，さらに一緒に実施してくれてわかりやすかった」などの感想・意見をいただいた．

⑶ 実際の実習で生じるどうしても実施できない事柄や見学できない内容の補充

臨地実習では産褥期・新生児期のどの時期を受け持つかによって分娩から退院までのスケジュールで母児に関する一連のケアを学べないことも多い．学内実習では産褥１日目から受け持つ設定にできるため，臨地実習では学べないケアを補うことができる．例としては褥婦に対する沐浴指導，退院診察，退院指導，出生届と母子健康手帳，新生児に対するK2シロップ服用，聴覚スクリーニング（ABR），先天性代謝異常検査，医師の１日目診察・５日目診察（原始反射含む）など入院中の母児に関する一連のケアを説明または見学・実施できるような内容にした．

5）分娩期実習の工夫

臨地実習においては少子化の進行や対象者の同意を得にくいという面から分娩期ケアを実施する機会に恵まれないことが多い．学内実習では分娩期ケアについて妊娠後期から分娩期のDVDを視聴し，時々再生を停止にして教科書を紐解きながら意見交換し合う場面を設定した．

6）外来実習での工夫

⑴ 外来実習のための事前課題を用いたプレゼンテーションの設定

学生には実習のために「外来実習のための事前課題」を提示してあり，その中には事例の妊婦健診経過もある．当日実施すべき学習内容と実習目標を設定したのち学んだことをプレゼンテーションする時間を設けた．

⑵ 妊婦モデル人形を用いた妊婦健診の実際を体験し，DVDでの振り返り学習

産婦人科外来に訪れるところから帰宅されるまでの妊婦健康診査の流れにそって妊婦モデル人形を用いて妊婦健康診査の実際を体験した．特に近年，国家試験問題にも提出されるノンストレステストを行うための分娩監視装置の扱い，プローベを固定するベルトの装着，仰臥位性低血圧の予防，分娩監視装置図の判読を体験した．そのうえで，DVDを視聴し振り返り学習を行った．

3.　学内実習での学びを具体的に当事者同士・臨地実習できた学生との共有化

学内実習を実施した学生と産科医療機関で実習が可能だった学生とが学びを共有することは母性看護学実習を深めることにつながる．実習最終日のカンファレンスには学生が主体となって，撮りためた学内実習の写真や学習経過を図として作成し，ホワイトボードや廊下の壁等に貼りだし，学習経過を自由に見ることができるようにした．臨地で学ぶことのできた貴重な体験，学内で学ぶことのできた貴重な体験を互いに交流し，学内実習になったことを卑屈に感じることなく，さらに学びを深められるように心がけた．

4. 学内実習のタイムスケジュール

1）病棟編

学内実習のタイムスケジュールの基本は表1，表2で示した通りである．実習初日は健康チェック，看護部長室への挨拶，病棟への挨拶，朝の申し送りを聞き，臨床指導者からの病棟オリエンテーションを受ける流れから始まり，受け持ち母子の選定・挨拶と同意，情報収集，褥婦とのコミュニケーションから関係性構築と情報収集，臨床指導者への報告，臨床講義，カンファレンス，翌日の行動計画立案などを実施した．教員は教員役や看護師長役，看護師役，時には模擬褥婦などを担当した．実習補助者は主として模擬褥婦，他に看護師役などを担当した．実習補助者は連日いるわけではないため，実習補助者がいる時間に合わせて褥婦ケア・新生児ケアを臨機応変に組み合わせて実施した．実習補助者もいない場合は，手の空いている母性看護学教員が模擬褥婦役を担当した．実習初日から看護過程の展開を意識して実施するように指導した．実習2日目以降は母子のパスに則って看護過程実習を展開していった．

表１　　学内実習初日（月）のタイムスケジュール

時間	学生の行動	場所	役割	資料
8:45	ユニフォームに着替えて集合 体調・行動履歴チェック 行動計画確認 実習誓約書確認	学生控室	Medi-EYE 学生 ID 設定	カルテ閲覧設定
8:55	看護部長挨拶 実習誓約書の提出	看護部長室 (学内)	実習誓約書	
9:05	病棟に入る・病棟に挨拶 手洗い 深夜からの引継ぎに参加	ステーション (演習室)		
9:15	スタッフ全体への挨拶 自己紹介 チームに別れ、行動計画発表 助言を得る	ステーション (演習室)	教員・実習補助者： 臨床指導者・看護師長・ 夜勤看護師役	申し送りシナリオ 全体とチーム別
9:20	病棟オリエンテーション：臨指 病棟の特徴・物品と環境、 電子カルテの見方、防護服 褥婦の概要紹介	ステーション (演習室)	教員・実習補助者： 臨床指導者・教員役	
10:00	受け持ち母子選定 母子へのあいさつ 同意書取り交わし 褥婦とコミュニケーション 先天性代謝異常検査・ 聴覚検査の申し込み説明	ステーション (褥室)	教員・実習補助者： 教員・褥婦役	同意書（学生４名） 先天性代謝異常検査 聴覚検査申込書 産褥・新生児１日目の経過表
10:30	電子カルテ等からの情報収集	ステーション	教員・臨床指導者役	
11:50	午前中の経過報告	ステーション	臨床指導者役	
12:00	休憩：含嗽・手洗い、マスク チェンジ／黙食	学生控室		
13:00	休憩終了と午後実習開始挨拶 臨床講義：DVD 視聴	学習室 (演習室)	教員役	DVD「新生児の観察」 パソコン、TV
14:00	新生児１日目：医師診察	新生児室	医師役・教員役	新生児チェックリスト 舌圧子 生後１日目経過表
14:45	カンファレンス準備	学習室		
15:00	学生カンファレンス	学習室	教員役	カンファレンスノート
15:45	午後の経過報告、署名戴く ２日目の行動計画立案 子育て施設等行動計画提出	ステーション	臨床指導者役 教員役	教員は 看護過程に取りかかることを指導する
16:00	病棟全体挨拶し実習終了	ステーション		

表 2　学内実習 2 日目（火）～ 5 日目（金）のタイムスケジュール

時間	学生の行動	場所	役割	資料
8:45	体調・行動履歴チェック 行動計画確認	学生控室	教員役	カルテ閲覧設定
8:55	実習開始 病棟へ移動、ご挨拶	ステーション （演習室）	教員役	
9:05	病棟に入る・病棟に挨拶 手洗い ホワイトボードで担当者確認	ステーション （演習室）	教員役	
9:00	朝礼・ミーティング参加 チームに別れ、行動計画発表 　助言を得る	ステーション （演習室）	教員・実習補助者： 臨床指導者・教員役	
9:15	情報収集・行動計画の修正	ステーション （演習室）	教員・実習補助者： 臨床指導者・教員役	
9:35	褥婦のバイタル測定および疲労等の情報を直接聴取、生殖器の復古観察、計画したケアを実施、5 日目は退院診察	病棟 病室	教員・実習補助者： 教員・褥婦役	Medi-EYE 情報取集 産褥・新生児○日目の経過表（紙媒体） 産褥ケア計画書
10:05	新生児の観察・沐浴可否判断 新生児係の沐浴見学 沐浴準備・沐浴実施・片付け K2 シロップ与薬（1,5 日目） 聴覚スクリーニング見学 　　（2 日目） 先天性代謝異常検査　5 日目	新生児室	教員・新生児係役	新生児体重計 臍帯処置 計算機
11:00	乳房・授乳の観察とケア見学	病室	臨床指導者役・褥婦役	授乳枕、産褥椅子、足台、乳房モデル
11:30	午前中の経過報告	ステーション	臨床指導者役	
12:00	休憩：含嗽・手洗い等／黙食	学生控室		
13:00	休憩終了と午後実習開始挨拶 臨床講義の他※授乳・沐浴・退院指導の見学（計画） カンファレンス準備	学習室 （演習室）	教員役	DVD「看護過程から学ぶ母乳育児支援」
14:00	カンファレンス 　受け持ち褥婦の看護過程 （アセスメント～看護計画） 看護過程修正	学習室	教員役・臨床指導者役	ホワイトボード カンファレンスノート
15:30	指導者に午後の経過報告 署名をいただく	ステーション	臨床指導者役	
15:45	翌日の行動計画立案	ステーション	臨床指導者・教員役	
16:00	病棟全体挨拶し実習終了	ステーション		

表 3 妊娠期（産婦人科外来での妊婦健康診査）スケジュール

目標

1．病棟実習（褥婦・新生児の看護過程・技術）の実施・評価を行うことによって，自己の学習課題を明確にできる
2．翌日の外来（妊婦の看護過程・技術）に向けて準備ができる
　1）学内実習課題学習（外来実習での妊婦ケアのために）に従って，事前学習を行う

時間	項目	目標	備考
8:45	集合・健康チェック 本日の実習オリ・行動計画発表		学生控室
9:00	自己学習	①妊婦健康診査の目的が言える ②妊婦健康診査を保証する法律を言える ③妊婦健康診査に必要な項目を説明できる ④ NST の正常を説明できる ⑤対象妊婦の経過アセスメント ⑥対象妊婦相当週数の妊婦の特徴	学生控室や 図書館
9:30	学習したことの発表あるいは 妊婦健康診査準備 対象妊婦の妊婦健康診査 　血圧測定，体重測定， 　尿検査（尿糖，尿蛋白，尿ケトン） 　子宮底長・腹囲測定 　レオポルド触診 　胎児心音の最良聴取部位の確定 　NST テスト（CTG 装着）	手技の確認：子宮底長・腹囲・浮腫・血圧測定・レオポルド触診・最良聴取部位の確定 ①妊婦健康診査に則って観察・各計測ができる ②観察・計測結果からアセスメントができる ③超音波検査結果から児の推定体重・羊水ポケットを評価できる ④ NST（CTG 装着）の結果を評価できる	母子看護学実習室 （産婦人科外来） 妊婦モデル メジャー ドップラー 桿状トラウベ ME モデル
11:30	記録		

午後：DVD の視聴や事前課題の修正などを行う．
　　事例妊婦の経過は初診～ 36 週までを提示している．

2）産婦人科外来編（妊婦健康診査）

産婦人科外来での実習は臨地でも半日程度としている．学内実習は表 3 のように実施した．事前課題で示された事例等を使って看護過程や技術を学んだ．

5.　学内実習の評価

学内実習となった学生 10 名は学内実習（病棟：母子ケア，産婦人科外来：妊婦健康診査）の全日程を 1 日も休まず出席した．学内実習が有益なものとなったかについて以下のように評価した．

1）実習評価表

表 4 のように臨地実習者と学内実習者の実習目標の到達度について示した．正確な比較はできないが，学内であることを考慮しても各項目，総合点においても良好な結果であった．ただし，最高値と最低値を比較すると，学内実習者の場合は差がなかった．

2）学生の意見

(1) 実習のまとめレポートの記載内容

対象学生全員のレポートを再度読み直した結果，学内実習と記載されていなければ判断できないほど，母児の看護過程の展開は個別性に溢れ，学びが大きかったことが記載されていた．

表 4　実習目標の到達度　　臨地実習者 =41 名　　学内実習者 =10 名

目標	平均値	最高値	最低値
1．産褥期にある母性の特性と健康問題について理解を深め，看護過程を展開できる．	78.1%	93.3%	63.3%
2．母子・父子を取り巻く家族関係を把握し，家族再構築のための看護実践について説明できる． （1．2．を合わせて 30 点）	80.0%	83.3%	76.7%
3．母子支援は妊娠期から子産み子育て期まで継続して実践されていることを説明できる． （10 点）	80.3% 80.0%	90.0% 83.3%	64.0% 76.7%
4．妊娠分娩産褥期及び早期新生児期にある母性の特性と健康問題に応じた看護実践ができる． （30 点）	80.0% 82.0%	96.7% 90.0%	61.3% 76.7%
5．生命の尊厳の認識を深めると共に自らの母性・父性・親子・家庭について考えることができ，ケア提供者としての成長を図ることができる． （30 点）	86.3% 86.7%	100% 90.0%	56.7% 83.3%
総合点	81.4% 82.5%	92.0% 85.0%	61.0% 80.0%

注）平均値，最高値，最低値は各目標の配点を母数として百分率（割合）で算出した．
各項目数字上段は臨地実習者の到達度，下段は学内実習者の到達度を示した．
臨地実習者グループと学内実習者グループは別に到達度を計算した．

⑵ 学内実習終了 1 年後の感想

現在，学生にとっては学内実習が終了してから 1 年経過した．本報告書をまとめるにあたって学内実習対象者だった学生 10 名にメールで，「率直な学内実習に関する意見･感想」を聞いた．10 名のうち 8 名から回答があり，カテゴリー 2，サブカテゴリー 9 に分類できた（表 5）．以下カテゴリーを【　　】，サブカテゴリーを＜　＞，コードを「　　」で表す．

①　【学び・できたこと】

学生は初日あるいは途中で学内実習が決定し「作ったパンフレットを見せることができない」，「病院実習ができる学生と同じような学びができるのか」，と＜学内実習決定時の残念さや不安があった＞にもかかわらず，「褥婦（役）とじっくり時間をかけながらコミュニケーションをとることができた」，「実際の褥婦さんとどう接していくか想像できた」，と＜褥婦（役）とのかかわりが充実していた＞，との感想が記載されていた．「出産の DVD を視聴し有意義な時間」，「学内であらためて学習することで知識の再確認ができた」，「沐浴などの看護技術も助言を得て何回も行う機会があり実際の臨床の流れも想像して学べた」，と＜知識・技術の再確認ができた＞，と述べている．「悪露の色や新生児の黄疸など，毎日変化があったことで観察点がよくわかり，学内であってもリアルに近い実習だった」，「実際に病院実習では黄疸や便の形状など見られない可能性もあったが，学内でむしろ見ることができてすごく勉強になった」，と＜悪露や新生児の黄疸などの日々変化する様子をリアルに学べた＞，＜学内だからこそグループメンバーと共同できた＞ともあった．

＜病棟実習のように看護過程が展開できた＞では，「病棟実習の様にアセスメント，計画立案，看護ケアを実施できた」，「出産後の身体状態の変化や親性が芽生える過程を学び，個別性に合わせた看護ケアを実施できた」，と示してあった．

表５　学内実習終了１年後の感想

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
学び・できたこと	学内実習決定時の残念さや不安があった	２日目から学内実習となり，作ったパンフレットを患者さんに見せることができず残念だった
		直接母児と関わることができない為，実習前は病院実習ができる学生と同じような学びが学内でできるかすごく不安だった
	褥婦（役）とのかかわりが充実していた	褥婦さんと関わる練習ができたり大変有意義な時間だった
		実際の褥婦さんとどう接していくか想像できた
		褥婦（役）とじっくり時間をかけながらコミュニケーションをとることができた
		実際に褥婦役の方がリアルな発言をして下さり，充実していた
	知識・技術の再確認ができた	出産のDVDを視聴し有意義な時間
		学内であらためて学習することで知識の再確認ができた
		沐浴などの看護技術も助言を得て何回も行う機会があり実際の臨床の流れも想像して学べた
	悪露や新生児の黄疸などの日々変化する様子をリアルに学べた	悪露の色や新生児の黄疸など，毎日変化があったことで観察点がよくわかり，学内であってもリアルに近い実習だった
		教員が前日から私たちが病院と同じ程度の学びができるよう，準備をしてくれたおかげで，病院実習した学生と変わらないぐらい多くの学びができた
		実際に病院実習では黄疸や便の形状など見られない可能性もあったが，学内でむしろ見ることができてすごく勉強になった
	学内だからこそグループメンバーと共同できた	学内だったからこそ，グループメンバーと相談し合いながら進められた
	病棟実習のように看護過程が展開できた	臨地実習で体験するようなケースの想定だった
		病棟実習の様にアセスメント，計画立案，看護ケア実施できた
		学内でも看護計画立案，実施ができ充実した実習だった
		出産後の身体状態の変化や親性が芽生える過程を学び，個別性に合わせた看護ケアを実施できた
	産後ケア・子育て施設で対象者と直接かかわれた	地域の産後デイケアや，子育ての駅などに行って，直接関わる機会があり良い経験となった
不安・残念だったこと	実際の母児と関われなかったことの今後の不安や残念さ	実際の母児に関われず病棟実習した学生との経験の差ができた
		実際には母性領域では働かないからこそ病棟を経験したかった
	初日の情報でケアを計画したが実際に合っているのか確認できない不安	臨床の場で妊婦・褥婦・新生児へのケアが直接出来なかったことは，今後を考えると少し不安になった
		実習初日分娩立会いした母児を受け持つことに決まっていたが実習できなくなり悔しい気持ち
		実際にお母さんの生の声を聞けないので，このケアであっているのに不安になることもあった

＜産後ケア・子育て施設で対象者と直接かかわれた＞は，本学母性看護学実習の特徴である母子地域包括ケアを取り入れた実習があったことが，良い経験として受け止めてられていた．

②　【不安・残念だったこと】

学内実習も有意義な経験だったと受け止める一方，＜実際の母児と関われなかったことの今後の不安や残念さ＞，＜初日の情報でケアを計画したが実際に合っているのか確認できない不安＞，が示され課題を残すこととなった．

Ⅴ．考察

1.　臨場感のある母性看護学学内実習となったと言えるか

本活動報告のテーマである臨場感のある学内実習ができたか．そしてそれは学生にどのように受け止められていたのかを評価することは重要なことであった．なぜ，臨場感があるようにしなければならなかったかと言えば，臨地実習を楽しみにしている学生の思いゆえの実習へのモチベーション低下を恐れたためであった．本学には高機能シミュレーターや分娩台や内診台

もなく，母性看護学領域のVR教材はまだ不十分である．また，教材があったとしても，教員はVR教材を使いこなせる能力も持っていなかった．持っていると言えば，長い助産師としての臨床経験に裏打ちされた母児の心身の状態や臨床現場の現実について十分熟知した知識の構築であった．実習へのモチベーションを低下させないためには，できるだけ臨床に近いことを設定し「手作り感あふれる工夫をしていこう」と考え方を切り替えた．学内実習を行うに際しての工夫・留意点として「病院実習に近いような褥室・新生児室・外来診察室の設定」，「産褥経過による悪露の変化や新生児経過による黄疸や便などの変化サンプル作成」，「学生が緊張感をもって学内実習に臨むため臨場感を出す工夫」，「学びを統合するための工夫」，「分娩期実習の工夫」，「外来実習の工夫」，と６つの工夫を心がけた．教員は時には看護部長,看護師長,助産師・看護師，指導者，褥婦，教員を変幻自在に演じた．中田，櫻井，湯本，他（2022）は学内実習において模擬カルテからの情報収集，周産期看護を専門とする教員による模擬妊婦や模擬褥婦，助産師としての臨床経験がある教員による模擬助産師および模擬臨床指導者は臨地実習に近い実習環境を提供する一助となり，他の臨地実習が行えた学生との満足度の比較において有意差は示されなかったことを明らかにしている．対象学生からは【学び・できたこと】として＜学内実習決定時の残念さや不安があった＞にもかかわらず，＜褥婦（役）とのかかわりが充実していた＞，＜知識・技術の再確認ができた＞，＜学内だからこそグループメンバーと共同した＞，＜病棟実習のように看護過程が展開できた＞，＜悪露や新生児黄疸などの日々変化する様子をリアルに学べた＞，などと記載していた．とくに＜悪露や新生児黄疸などの日々変化する様子をリアルに学べた＞では「悪露の色や新生児の黄疸など，毎日変化があったことで観察点がよくわかり，学内であってもリアルに近い実習だった」，「教員が前日から私たちが病院と同じ程度の学びができるよう，準備をしてくれたおかげで，病院実習した学生と変わらないぐらい多くの学びができた」，「実際に病院実習では黄疸や便の形状など見られない可能性もあったが，学内でむしろ見ることができてすごく勉強になった」，という記載があったことから，教員の工夫や指導意図は十分伝わっていたことが読み取れた．

学生が緊張感をもって学内実習に臨むため臨場感を出す工夫はさまざまな場面を設定した．中島，早川（2014）は臨地実習で学生がストレスを感じやすい中に【報告に関連した未熟さ・不安･緊張】があることを報告している．また，実際に学生が指導者への計画発表や報告に向けて，緊張した面持ちで下書きや練習をしている場面にはしばし遭遇していたことから，指導者への行動計画発表や観察後のアセスメント報告場面を設定した．この設定の効果については，実習１年後の感想では全く記載はなく，効果を評価することはできなかったため，今後は，効果を評価できるように工夫していく必要がある．

2. 学内実習の課題

1） 担当教員が一人でも指導できる学内実習プログラムだったか

３つのグループに学内実習を実施してみて，担当教員が一人でも指導できるプログラムだった．ただし，褥婦役は褥婦の特徴を理解している褥婦経験者や看護職が１日２時間でも演じ，その後褥婦として学生から受けたケアを一緒に振り返ってもらうと，臨地での実習では得られにくい褥婦からの評価を知ることができ，深い学びにつながることが示唆された．

2） 積み残された課題

学内実習では１日の欠席もなく，実習評価も全員が80点以上であり，実習目標が達成できた．一方，最高値と最低値を比較すると，学内実習者の場合は差がなかった．学内実習では，臨地のような情報が過多にあり，生身の人へのケアや臨地でのさまざまなスタッフと関わって

いく実習とは違い，学生２名で１組の母子を受け持ち常に学生２名で行動し，話し合い，教員から直接的な指導を受けることから，明らかな差が生まれにくい現状があったと考えられる．このことを改善が必要なことと考えるか，良い傾向ととらえるかについては今後検討していきたい．

学内実習も有意義な経験だったと受け止める一方，学内実習は【不安・残念だったこと】があり，＜実際の母児と関われなかったことの今後の不安や残念さ＞や＜初日の情報でケアを計画したが実際に合っているのか確認できない不安＞を記載していた．臨床の場で妊婦・褥婦・新生児へのケアが直接出来なかったことは，何らかの課題を残すこととなった．

上野，大澤，森田，他（2022）は，学生の実習満足度・到達度における臨地実習主体群と学内実習主体群の比較を行っている．質問 12 項目中「母性看護学実習に意欲的に取り組んだ」「実習目的・目標は理解できた」「総合的に実習目的・目標は達成できた」「この実習で分娩時の看護を体験できた」「この実習は総合的に満足できた」の５項目において学内実習主体群では低いという結果であった．

学内実習対象学生の中だけでみれば，学内実習でできたこと・学べたことは十分だったことを読み取れたが，今後は学生全員から評価を受けて検討する必要がある．

Ⅵ．結論

1.　対象学生からは【学び・できたこと】として＜学内実習決定時の残念さや不安があったにもかかわらず＞＜褥婦（役）とのかかわりが充実していた＞＜知識・技術の再確認ができた＞＜学内だからこそグループメンバーと共同した＞＜病棟実習のように看護過程が展開できた＞＜悪露や新生児黄疸などの日々変化する様子をリアルに学べた＞などと記載していたことから，教員の工夫や指導意図は十分伝わっていたことが読み取れた．

2.　学内実習の課題としては【不安・残念だったこと】があり，＜実際の母児と関われなかったことの今後の不安や残念さ＞や＜初日の情報でケアを計画したが実際に合っているのか確認できない不安＞を記載していた．臨床の場で妊婦・褥婦・新生児へのケアが直接出来なかったことは，何らかの課題を残すこととなった．

3.　実習評価点において，学内実習の場合は学生間の差がなかった．今後，検討していく必要がある．

資料をまとめ・報告するにあたっての利益相反はありません．また，快く実習記録・画像の掲載および感想掲載を承諾してくれた学内実習対象学生の皆さまに心から感謝します．

文献

東尾公子，上山直美（2021）．コロナ禍における母性看護学学内実習の実践報告．宝塚大学紀要．(35)．189-197.

平野有希子，平川仁尚，江　啓発，八谷　寛（2022）．新型コロナウィルス感染拡大が日本の医療・介護・福祉の現場にもたらした初期段階の影響に関する質的研究．東海公衆衛生雑誌．10（1），85-94.

厚生労働省（入手日：2023.9.19）．新型コロナウィルス感染症（COVID-19）に係る新型インフルエンザ等感染症から５類感染症への移行について　厚生労働大臣公表文書．https://www.mhlw.go.jp/stf/corona5rui.html.

牧野美幸(2020)．看護学士課程におけるシミュレーション教育の実際と課題．淑徳大学看護栄養学部紀要．(12)，7-18.

中島久美子，早川有子（2014）．母性看護学実習における学生のストレスと対処行動から捉えた実習指導の課題．群馬パース大学紀要．17，17-27.

中田覚子,櫻井綾香,湯本敦子,竹内良美(2022). COVID-19 禍における母性看護学実習の代替実習の有用性と課題. 佐久大学看護研究雑誌. 14 (1), 45-54.

上野典子,大澤豊子,森田桂子,大野友子(2022). Covid-19 における母性看護学実習の学生の実習満足度・到達度の関係－臨時実習時間減少から生じた課題の分析第 1 報－. 了徳寺大学研究紀要. (16), 59-66.

長岡崇徳大学研究紀要　第 4 号　2023
令和 6 年 3 月 31 日

編集・発行　長岡崇徳大学　学術委員会
〒940-2135　新潟県長岡市深沢町 2278 番地 8 TEL(0258)46-6666